

鹿児島の植物 70

奄美大島・徳之島の珍しい植物

植物担当 久保 紘史郎

コゴメキノエラン (ラン科)



森の中で初めて見つけたときは、鳥肌が立つほど感動した。湿度が高く霧に包まれることが多い森にだけ生育する。花が小さく樹木に着生することから漢字で「小米樹上蘭」。日本国内では奄美大島が唯一の産地で、国内希少野生動植物種にも指定されている。乱獲によって非常に数が減っている。

サガリラン (ラン科)



これは、太ももまで水につかりながら撮影したもの。川沿いの樹木にぶら下がるように着生するため、写真を撮るのが非常に難しい。国内では奄美大島だけに分布している。

シコウラン (ラン科)



これは、7月下旬、蒸し暑い森の中を一日中探し回り、諦めかけていた時にやっと見つけて撮影したもの。原生林の樹木に着生するが、乱獲により個体数は極めて少なくなっている。

ハツシマカンアオイ (ウマノスズクサ科)



(写真提供：服部正策氏)

奄美大島と徳之島には 10 種以上、地域固有のカンアオイが知られているが、ハツシマカンアオイのように花柄が長くなる種は、他にない。他のカンアオイとは、異なる虫を花に誘い込むためなのかもしれない。「ハツシマ」は、九州や南西諸島の植物を研究した故初島住彦氏(鹿児島大学名誉教授)にちなむ。